

～研究業績集録の刊行にあたって～

この度、令和元年度版の「研究業績集録」を発行することになりました。この1年間に各研究者がまとめ上げた書籍、学術論文、学会等の研究業績が掲載されています。基礎系研究者におかれましては新たな発見が医学の進歩に結びつき、臨床系研究者におかれましては治療成績を改善し、生命予後や新たな術式の開発に結びつく研究がなされたのではないかと思います。また、大学院研究分野におかれましては組織再生、分子生物学、疾患バイオマーカーなど新たな領域へのチャレンジなど大学ならではの多くの研究が含まれております。邦文、英文、合わせて多くの努力の結晶がここに集約されています。医科大学であると同時に特定機能病院でもあり、医療が日進月歩している恩恵を患者さんにフィードバックしなければなりません。多くの論文が引用されることを願っています。

臨床、研究業務で忙しい中、多くの業績を作られた先生方が1年を振り返る資料とされることを願っています。

令和3年3月

聖マリアンナ医科大学
学長 北川博昭

～本学の更なる研究発展に向けて～

大学等の研究機関所属の研究者が良質な研究成果を発表するためには、研究環境の充実及び拡充が必要であり、その中でも科研費を始めとした競争的資金の獲得は非常に重要です。本学では令和元年度より、URA(大学雇用の研究支援の専門家)による科研費計画書の作成支援、財団法人等公募の各種助成金申請書の作成支援の制度を構築しました。これらの制度を活用した更なる研究費の獲得や良質な研究成果の発表を期待します。

臨床研究においては、特に「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に基づき実施していた研究の一部に「臨床研究法(平成30年4月1日施行)」が適用され、国が認可した臨床研究審査委員会の承認を経て実施することとなりました。本邦で行われる医学研究においては、世界標準での質を保障することが求められる時代となりました。

今後は、益々、研究実施に際して適用される関連指針や関連法規等の規制が厳しくなり、これまでよりも研究環境が厳しい時代の到来が予想されます。

この苦難の時代を一丸となり乗り切っていく、学会発表や学術論文などの創出に向け更に精進していきましょう。

令和3年3月

聖マリアンナ医科大学
大学院医学研究科長 遊道 和雄